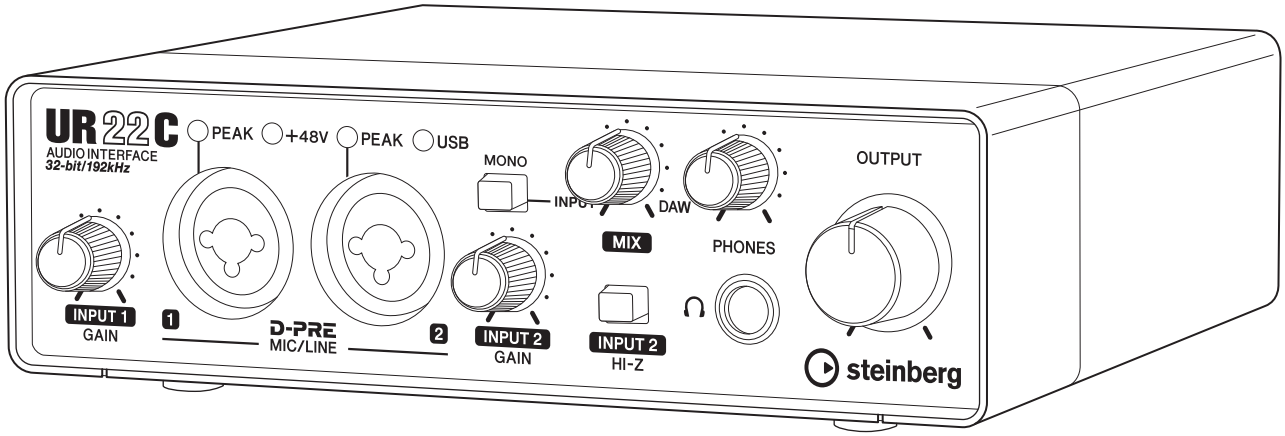
UR22C

USB AUDIO INTERFACE



JA オペレーションマニュアル

steinberg

目次

主な特長 2

各部の名称と機能 3

フロントパネル 3
リアパネル 5

ソフトウェア 6

Yamaha Steinberg USB Driver 6
dspMixFx UR-C 8
Cubaseシリーズの専用画面 13
Sweet Spot Morphing Channel Strip 16
REV-X 18
Guitar Amp Classics 20

コンピューターで使う 23

接続例 23
DAWソフトウェアのオーディオ設定をする 24
録音/再生する 25

iOS機器で使う 27

接続例 27
録音/再生する 28

困ったときは 30

資料 32

エフェクトの使用制限 32
コンピューターのコネクター形状 32
本体内部の信号の流れ 33
ブロックダイアグラム 34
技術仕様 36
一般仕様 37
TOOLS for UR-Cのアンインストール 38

主な特長

2 x 2 USB 3.0 Audio Interface with 2 x D-PRE and 32-bit/192 kHz support

UR22Cは2入力/2出力のUSB 3.0オーディオインターフェースです。定評あるD-PREマイクプリアンプを2基搭載、クラス最高の32-bit/192 kHzに対応し、どんなオーディオソースに対してもそのニュアンスや表現力を余すところ無く捕えます。

True 32-bit resolution

UR22CとYamaha Steinberg USB Driverは、ともに従来の32-bit Floatデータよりも高い解像度でオーディオ信号を表現できる32-bit Integerデータをサポートします。Cubaseのように32-bit Integerデータを完全に活用できるDAWソフトウェアと組み合わせることで、これまで経験したことのない解像度での音楽制作を実現できます。

USB 3.0 & USB Type-C

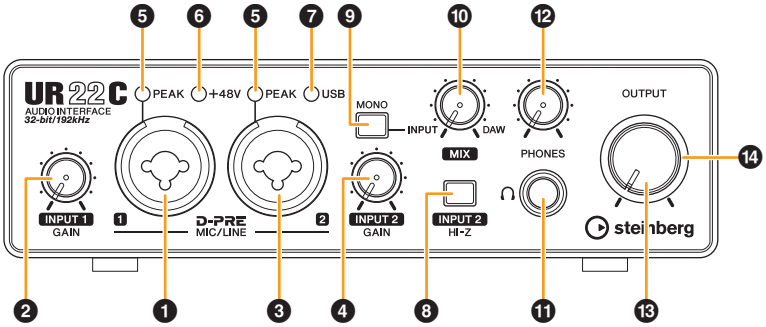
UR22CはUSB Type-C端子を装備するだけでなく、USB 3.0 (USB 3.1 Gen 1) SuperSpeedモードに正式対応しています。またUSB 2.0 High-Speedモードによる広い互換性も提供しており、Type-C to Type-Aケーブルが付属します。

dspMixFx

UR22Cに搭載された最新のカスタムDSPチップ "SSP3" によって実現されるdspMixFxテクノロジーは、REV-Xをはじめとしたエフェクトを駆使したレイテンシーフリーのモニタリング環境をどんなDAWソフトウェアと組み合わせた場合にも提供できます。

各部の名称と機能

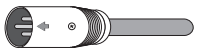
フロントパネル



❶ [MIC/LINE 1]端子

マイク、電子楽器を接続します。この端子は、XLRタイプとフォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。

プラグの種類



XLRタイプ(バランス)

フォーンタイプ(バランス)

フォーンタイプ(アンバランス)

NOTE

ファンタム電源はXLRタイプにのみ供給されます。

❷ [INPUT 1 GAIN]ノブ

[MIC/LINE 1]端子の入力信号レベルを調節します。

❸ [MIC/LINE 2]端子

マイク、電子楽器、エレキギター、エレキベースなどを接続します。この端子は、XLRタイプとフォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。

NOTE

ファンタム電源はXLRタイプにのみ供給されます。

❹ [INPUT 2 GAIN]ノブ

[MIC/LINE 2]端子の入力信号レベルを調節します。

❺ [PEAK]インジケーター

入力信号がクリッピングレベルより3 dB低いレベルになると点灯します。

最適な録音レベルにするために

一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

❻ [+48V]インジケーター

[+48V]スイッチ(ファンタム電源)がオンのときに点灯します。

❼ [USB]インジケーター

電源が入りコンピューターやiOS機器と通信できているときは点灯します。コンピューターやiOS機器と通信できていないときは点滅します。

❽ [INPUT 2 HI-Z]スイッチ

[MIC/LINE 2]端子の入力インピーダンスを切り替えます(オン▂/オフ▇)。エレキギターやエレキベースなど、出力インピーダンスの高い楽器を[MIC/LINE 2]端子に直接接続するときは、オンにします。HI-Zスイッチをオンにするときは、楽器と[MIC/LINE 2]端子をフォーンタイプのアンバランスのケーブルで接続してください。

警告

スピーカー保護のため、[INPUT 2 HI-Z]スイッチをオン/オフする前にモニタースピーカーの電源をオフにしてください。また、[OUTPUT]ノブなどの出力コントロールは、すべて最小にしてください。大音量が出て、聴力障害または外部機器の損傷になることがあります。

ご注意

[INPUT 2 HI-Z]スイッチをオンにしたまま機器を抜き差ししないでください。外部機器および本体の故障の原因になります。

NOTE

- バランスのケーブルで接続したときは、正常に動作しません。
- HI-Zスイッチがオンのときには、XLRタイプからの信号がカットされます。

❾ [MONO]スイッチ

オンのときは、[MIC/LINE 1/2]端子への入力が[MAIN OUT L/R]端子と[PHONES]端子のL/Rチャンネルの両方に出力されます。オフのときは、[MIC/LINE 1]端子への入力が[MAIN OUT L]端子へ、[MIC/LINE 2]端子の入力が[MAIN OUT R]端子へ出力されます。
[PHONES]端子では、[MIC/LINE 1]端子の入力がLチャンネルへ、[MIC/LINE 2]端子の入力がRチャンネルへ出力されます。

❿ [MIX]ノブ

[MIC/LINE 1/2]端子に入力された信号と、DAWなどのソフトウェアから出力された信号の音量バランスを調節します。[MIX]ノブによる操作は、コンピューターに送信される信号には影響を与えません。

> **MIXノブの使い方**
> 入力した音量が大きいと感じる場合は[DAW]側へ、DAWからの音量が大きいと感じる場合は[INPUT]側へノブを回します。ノブを[DAW]側へ最大限に回すと、DAWからの音だけが聴けます。

⓫ [PHONES 🎧]端子

ヘッドフォンを接続します。

⓬ [PHONES]ノブ

ヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

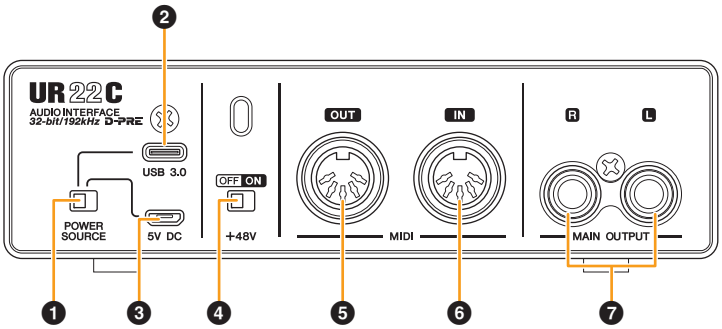
⓭ [OUTPUT]ノブ

[MAIN OUTPUT]端子の出力信号レベルを調節します。

⓮ POWERインジケーター

電源が入ると点灯します。電源供給に問題がある場合は点滅します。この場合は、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーをご使用ください。

リアパネル



❶ [POWER SOURCE]スイッチ

本体に電源供給する端子を選びます。[USB 3.0]端子から電源供給するときは[USB 3.0]端子側へ、[5V DC]端子から電源供給するときは[5V DC]端子側へスイッチを切り替えます。

❷ [USB 3.0]端子

コンピューターまたはiOS機器を接続します。

ご注意

[USB 3.0]端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターや本体の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行なってください。

- **USBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。**
  - **すべてのアプリケーションを終了させてください。**
  - **本体からデータが送信されていないか確認してください。**
- **USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。**

NOTE

iOS機器と本体の接続には、Apple社のアクセサリが必要な場合があります。詳細は、UR22Cスタートアップガイドをご参照ください。

❸ [5V DC]端子

USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーなどを接続します。この端子はMicro USB B端子を接続します。iOS機器や十分なバスパワーが供給できないコンピューターと接続する場合に使います(本製品には、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーは付属しません)。

ご注意

- **お使いになるUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーの安全上のご注意をお読みください。**
- **5pin microUSBプラグで、規格に適合した電源供給ができるUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーをお使いください。**
  出力電圧 4.8 V ～ 5.2 V
  出力電流 0.9 A以上

> **5V DCの活用**
> コンピューターと接続する場合でも、[POWER SOURCE]スイッチを[5V DC]側に設定すると[5V DC]端子からの外部電源で動作できます。外部電源を活用することで、たとえばコンピューターのUSB端子からの電源に起因するノイズや音質劣化などの問題を回避できます。

❹ [+48V]スイッチ

ファンタム電源(+48V)をオン/オフします。このスイッチをオンにすると、[MIC/LINE 1/2]のXLR端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

ご注意

ファンタム電源を使用する場合、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の内容にご注意ください。

- **ファンタム電源のスイッチをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。**
- **ファンタム電源のオン/オフは、出力コントロールを最小にした状態で行なう。**
- **[MIC/LINE 1/2]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ファンタム電源のスイッチをオフにする。**

NOTE

ファンタム電源をオン/オフするときに、[MIC/LINE 1/2]の入力が数秒間ミュートされます。

❺ [MIDI OUT]端子

MIDI機器のMIDI INに接続します。コンピューターから送信されたMIDI信号を出力します。

❻ [MIDI IN]端子

MIDI機器のMIDI OUTに接続します。MIDI信号をコンピューターへ送信します。

NOTE

- iOS機器用アプリケーションでMIDI端子を使用する場合、MIDIポートとして[Steinberg UR22C-ポート1]を選択してください。[Steinberg UR22C-ポート2]は使用できません。
- 安定したデータ送受信が保証できない場合があるため、MIDIを使用中に、dspMxFxを起動しないようにしてください。

❼ [MAIN OUTPUT L/R]端子

モニタースピーカーなどを接続します。この端子は、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。出力レベルは、本体前面パネルの[OUTPUT]ノブで調節可能です。

ソフトウェア

ここでは、コンピューターで使用する場合のソフトウェアについて説明します。

Yamaha Steinberg USB Driver

本体とコンピューターの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。コントロールパネルで、オーディオドライバーの基本設定や切り替え(Windows)やオーディオドライバー情報の確認(Mac)ができます。

画面の開き方

Windows

- スタートメニューから、[Yamaha Steinberg USB Driver] → [Control Panel]
- Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。

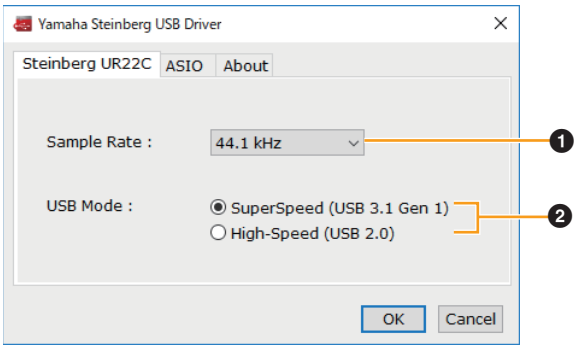
Mac

- [アプリケーション] → [Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [Steinberg UR22C]または[Steinberg UR22C(High Precision)] → [コントロールパネル] → [Open Config App]

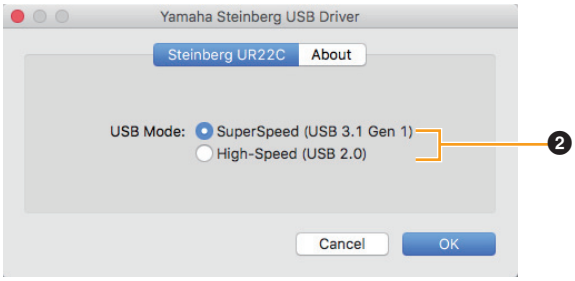
Steinberg UR22C画面

本体のサンプリング周波数やUSBモードを切り替えます。

Windows



Mac



❶ Sample Rate

本体のサンプリング周波数を切り替えます。

選択肢：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

NOTE

設定できるサンプリング周波数は、DAWの対応するサンプリング周波数によって異なります。

❷ USB Mode

USBモードを切り替えます。デフォルトはSuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)モードです。

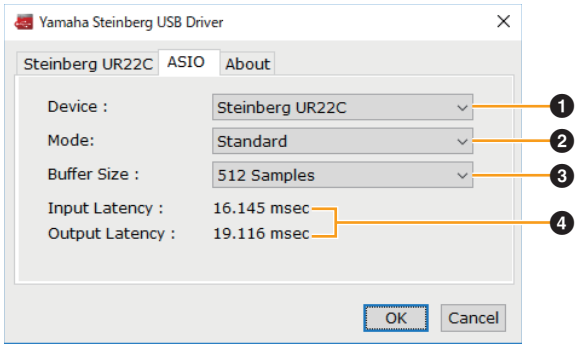
選択肢：SuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)、High-Speed (USB 2.0)

NOTE

High-Speed (USB 2.0)モードでは通信帯域幅が狭くなりますが、UR22Cの動作に影響はありません。また、レイテンシーなどその他の性能も変わりません。

ASIO画面(Windowsのみ)

ASIOドライバーの設定を切り替えます。



❶ Device

ASIOドライバーで使う機器を切り替えます。コンピューターにYamaha Steinberg USB Driver対応機器が2台以上接続しているときに有効です。

❷ Mode

レイテンシーのモードを選びます。

選択肢：Low Latency、Standard、Stable

選択肢	説明
Low Latency	レイテンシーが小さいモードです。高性能なコンピューターが必要となります。
Standard	標準的なレイテンシーモードです。
Stable	レイテンシーが大きいモードです。性能が低いコンピューターや、負荷の高いプロジェクトで安全性が高くなります。

❸ Buffer Size

ASIOドライバーのバッファーサイズを切り替えます。サンプリング周波数の値で、バッファーサイズの設定範囲が変わります。バッファーサイズの設定でレイテンシーの値が変わります。バッファーサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。

サンプリング周波数	設定範囲
44.1 kHz / 48 kHz	32 Samples ～ 2048 Samples
88.2 kHz / 96 kHz	64 Samples ～ 4096 Samples
176.4 kHz / 192 kHz	128 Samples ～ 8192 Samples

❹ Input Latency/Output Latency

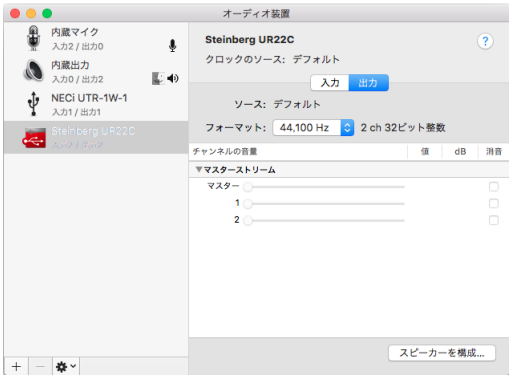
オーディオ入出力信号のレイテンシー (遅延時間)を、ミリ秒単位で表示します。

About画面

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。

サンプリング周波数の切り替え(Mac)

[Audio MIDI設定]で切り替えます。[アプリケーション] → [ユーティリティ] → [Audio MIDI設定]を開き、[フォーマット]でサンプリング周波数を切り替えます。

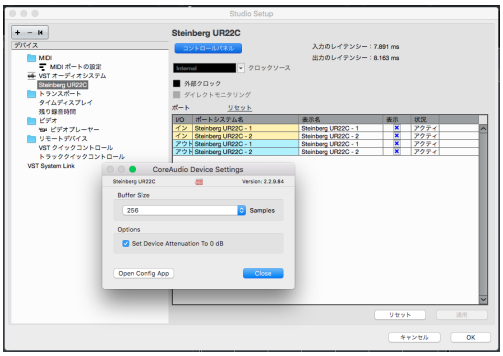


バッファーサイズの切り替え(Mac)

各アプリケーション(DAWソフトウェアなど)の設定画面で切り替えます。

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定]を開き、画面左メニューの[Steinberg UR22C]または[Steinberg UR22C(High Precision)]内にある[コントロールパネル]をクリックし、バッファーサイズを切り替えます。

設定画面の開き方は、アプリケーションによって異なります。



32-bit Integerで使用するには(Mac)

Cubaseでは、[ASIOドライバー]の選択で[Steinberg UR22C]または[Steinberg UR22C(High Precision)]が表示されます。Cubaseとドライバーの間を、32-bit integerビット解像度で処理する場合は、[Steinberg UR22C(High Precision)]を選びます。

dspMixFx UR-C

本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作するソフトウェアです。最大2チャンネルの入力信号をステレオにミックスして出力できます。入力信号には本体に搭載されているDSPエフェクトをかけることができ、ハードウェアミックスによるレイテンシーのない快適なモニター環境を構築できます。

画面例

画面の開き方

Windows

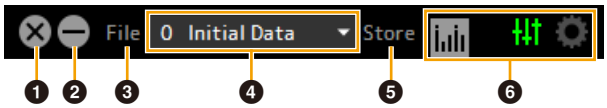
[すべてのプログラム]または[すべてのアプリ] → [Steinberg UR22C] → [dspMixFx UR-C]

Mac

[アプリケーション] → [dspMixFx UR-C]

ツールエリア

dspMixFx UR-Cの共通設定を操作します。



❶ 閉じる

dspMixFx UR-Cを終了します。

❷ 最小化

dspMixFx UR-Cの画面を最小化します。

❸ File

dspMixFx UR-Cの設定ファイルの保存やシーンの取り込みなど、4つのメニューを表示します。

メニュー	説明
Open	dspMixFx UR-Cの設定ファイルを読み込みます。
Save	dspMixFx UR-Cの設定ファイルをコンピューターに保存します。
Import Scene	保存したdspMixFx UR-Cの設定ファイルから、1つのシーンを取り込みます。ファイル選択ダイアログでファイルを選択すると表示される[IMPORT SCENE]の画面左側では、取り込むdspMixFx UR-Cの設定ファイルと取り込むシーンを選びます。画面右側では、シーンの取り込み先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが取り込まれます。
Initialize All Scenes	保存したすべてのシーンを削除します。

❹ シーン

シーンの名前を表示します。シーンの名前をクリックすると、シーンの名前を変更できます。右側のリストボタンをクリックすると、シーンの呼び出し画面が開きます。シーンをクリックすると、そのシーンを呼び出しできます。画面の外をクリックすると、シーンの呼び出しをキャンセルできます。

❺ Store

シーンの保存画面を開きます。STORE NAMEには、保存したいシーンの名前を入力します。No. NAMEでは、シーンの保存先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが保存されます。

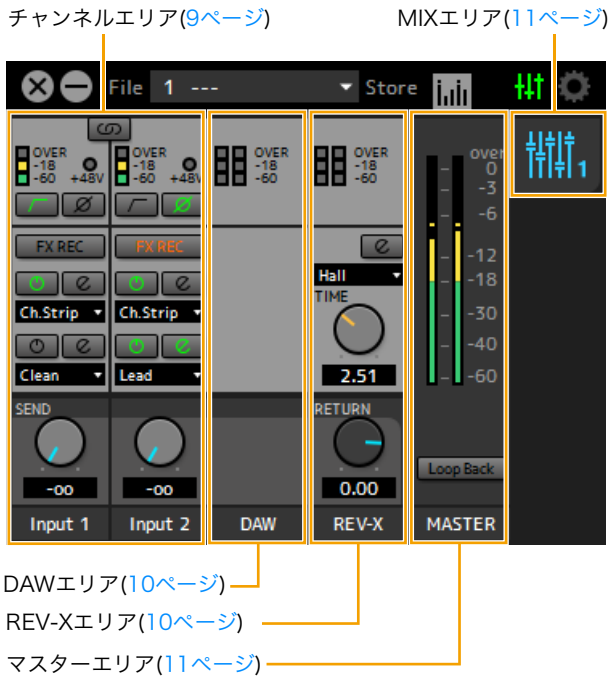
❻ 画面の切り替え

dspMixFx UR-Cの画面を切り替えます。開いている画面のアイコンが点灯します。

アイコン	説明
	メイン画面
	セットアップ画面
	メーター画面

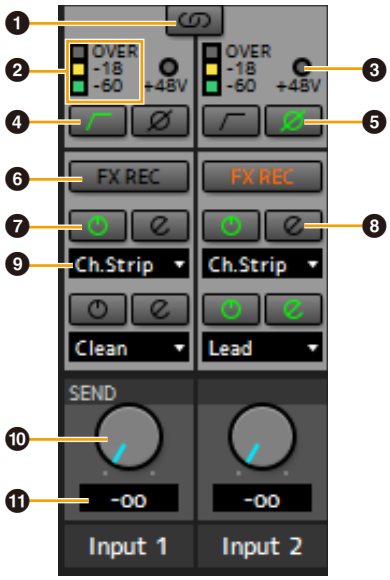
メイン画面

全体の信号の流れを操作します。



チャンネルエリア

入力チャンネルを操作します。



❶ チャンネルリンク

隣り合う2つのチャンネルのチャンネルリンクをオン(点灯)/オフ(消灯)します。オンにすると、2つのチャンネルがリンクして1つのステレオチャンネルとして機能します。

❷ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❸ +48V

本体で切り替えたファンタム電源のオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

❹ ハイパスフィルター

ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します。
ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「セットアップ画面」(12ページ)で切り替えます。

❺ フェーズ

信号の位相の反転(180°)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❻ FX REC

FX REC(エフェクトのかけ録り)をオン/オフします。

選択肢	説明
オン(点灯)	モニター信号(本体に送る信号)と録音信号(DAWソフトウェアに送る信号)にエフェクトをかけます。
オフ(消灯)	モニター信号(本体に送る信号)だけにエフェクトをかけます。

❼ エフェクトオン/オフ

エフェクトをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❽ エフェクトエディット

選ばれているエフェクトの設定画面を開(点灯)閉(消灯)します。

❾ エフェクトタイプ

エフェクトタイプを表示/切り替えします。
選択肢：NoEffect、Ch.Strip、Clean、Crunch、Lead、Drive

NOTE

同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(32ページ)をご参照ください。

❿ REV-Xセンド

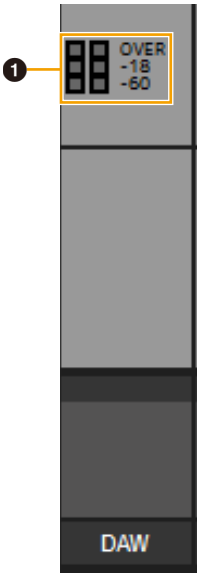
REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

⓫ REV-Xセンド値

REV-Xに送る信号の量を表示/設定します。数値のダブルクリックで値を変更します。

DAWエリア

DAWチャンネルを操作します。

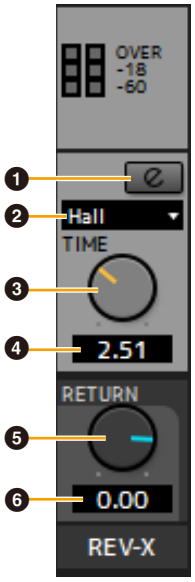


❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

REV-Xエリア

REV-Xチャンネルを操作します。



❶ REV-Xエディット

「REV-X」(18ページ)の設定画面を開(点灯)閉(消灯)します。

❷ REV-Xタイプ

REV-Xのタイプを切り替えます。
選択肢：Hall、Room、Plate

❸ REV-Xタイム

REV-Xの残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

❹ REV-Xタイム値

REV-Xタイムの値を表示/変更します。数値のダブルクリックで値を変更します。

❺ REV-X リターン

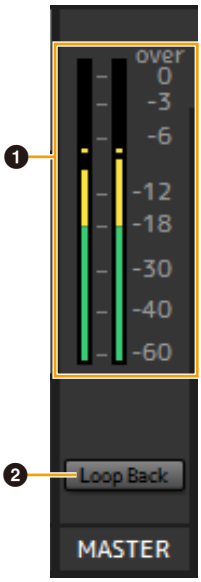
REV-Xのリターンレベルを調節します。

❻ REV-X リターン値

REV-Xのリターンレベルを表示/設定します。数値のダブルクリックで値を変更します。

マスターエリア

マスターチャンネルを操作します。

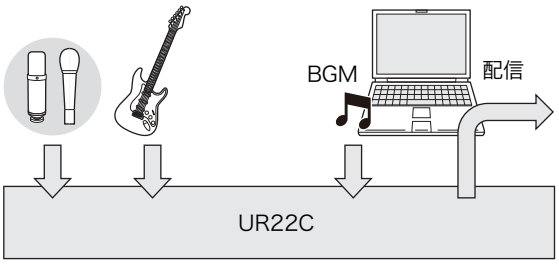


❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❷ Loop Back

ループバック機能をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

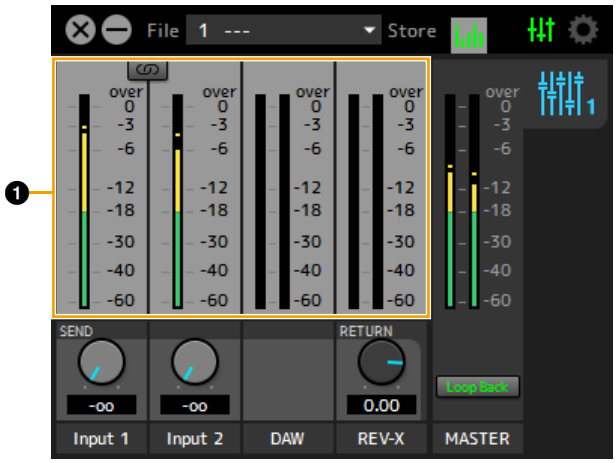
> **ループバックとは**
> インターネットの映像配信などに便利な機能です。本体の入力端子に入力されているオーディオ信号(ギター、マイクなど)と、コンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本体内で2チャンネルにミックスし、コンピューターに戻します。「本体内部の信号の流れ」(33ページ)参照。
>
> DAWソフトウェア経由で本体からの入力信号をモニターしているときに、ループバック機能をオンにすると、大きなノイズを発生します。これは、本体とDAWソフトウェアの間でオーディオ信号の無限ループが形成されるからです。ループバック機能を使用するときはDAWソフトウェアのモニター機能をオフにしてください。
>
> 
>

MIXエリア

操作対象のMIXを表示します。MIX1が常時ONとなります。

メーター画面

メイン画面の上部をメーター表示します。



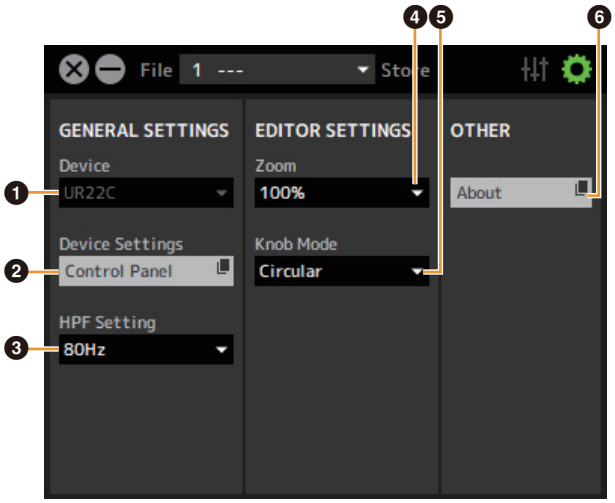
❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。ピークホールドはつねにONです。

表示色	説明
緑	-18dBまで
黄色	0dBまで
赤	CLIPした場合

セットアップ画面

本体の共通設定を操作します。



❶ Device

dspMixFxに対応する他の機器を同時に接続しているときに、操作対象を選択します。

❷ Device Settings

コントロールパネルを開きます。

❸ HPF Setting

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます。
選択肢：120 Hz、100 Hz、80 Hz、60 Hz、40 Hz

❹ Zoom

画面サイズを変更します。
選択肢：100 %、150 %、200 %、250 %、300 %

❺ Knob Mode

dspMixFx UR-Cのノブの操作方法を切り替えます。

選択肢	説明
Circular	円を描くようにドラッグすることで値を増減します。時計回しで値が増え、反時計回しで値が減ります。ノブの任意の場所をクリックすると、クリックした場所の値に変化します。
Linear	直線的にドラッグすることで値を増減します。上方向または右方向で値が増え、下方向または左方向で値が減ります。ノブの任意の場所をクリックしても、クリックした場所の値に変化しません。

❻ About

ソフトウェアや本体のファームウェアのバージョンを表示します。

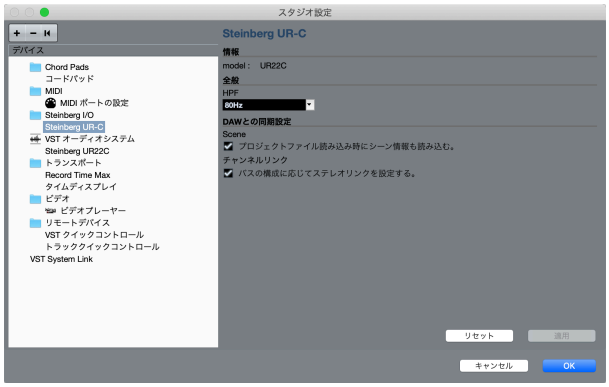
Cubaseシリーズの専用画面

本体の設定をCubaseシリーズから操作できる画面です。Cubaseシリーズの専用画面を使うと、dspMixFx UR-Cを使って設定するパラメーターをCubaseシリーズから設定できます。入力設定画面とハードウェア設定画面の2つがあります。

画面例

入力設定画面

ハードウェア設定画面



画面の開き方

入力設定画面

Cubaseシリーズのメニューから、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio]でオーディオトラックを作成し、画面左側のインスペクターに表示される[UR22C]タブをクリック

ハードウェア設定画面

Cubaseシリーズメニュー

- [スタジオ] → [スタジオ設定] で [スタジオ設定]を開き、左側の[SteinbergI/O]で[Steinberg UR-C]を選択
- 入力設定画面の[ハードウェア設定]をクリック

入力設定画面

本体の入力チャンネルの機能を操作します。信号は、上から下へ流れます。この画面の設定は、Cubaseのプロジェクトファイルに保存されます。ただし、ファンタム電源のオン/オフの表示だけは保存されません。

入力設定画面は、UR22Cにルーティングされているオーディオトラックに表示されます。

ヘッダーエリア

接続された機器名の表示と、Editorを開きます。

❶ モデル

操作対象のモデル名(UR22C)を表示します。クリックすると入力設定画面の表示/非表示が切り替わります。

❷ ハードウェア設定

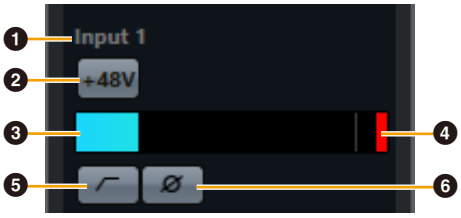
ハードウェア設定画面を開きます。

❸ Editor起動

dspMixFx UR-Cを開きます。

ハードウェア入力設定エリア

本体のインプットに関連するパラメーターを設定します。



❶ ポートネーム

トラックに入力されている本体の入力ポート名称を表示します。

❷ +48V

本体リアパネルの[+48V]スイッチのオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

❸ インプットメーター

入力レベルを表示します。

❹ クリップインジケーター

入力信号がクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

❺ ハイパスフィルター

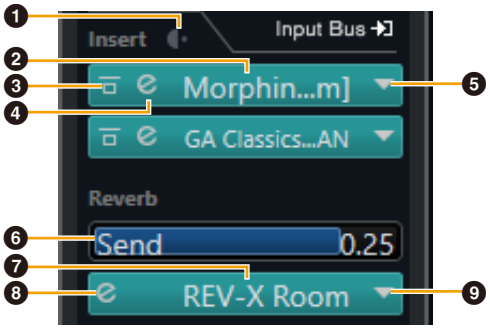
ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「ハードウェアセットアップ画面」(15ページ)で切り替えます。

❻ フェーズ

信号の位相の反転(180°)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。ステレオの場合はLRを表示します。

エフェクト設定エリア

本体のインプット/アウトプットポートのエフェクトに関連するパラメーターを操作します。



❶ プリ/ポスト

エフェクトのインサート位置を設定します。

❷ エフェクトネーム

設定中のエフェクトを表示します。

❸ エフェクトバイパス

エフェクトをバイパスします。

❹ エフェクトエディット

選ばれているエフェクトの設定画面を開きます。

❺ エフェクトタイプ

エフェクトタイプを選びます。

選択肢： No Effect、Morphing Ch Strip ([m]または[s])、GA Classics - CLEAN、GA Classics - CRUNCH、GA Classics - LEAD、GA Classics - DRIVE

NOTE

同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(32ページ)をご参照ください。

❻ REV-X Send

REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。

範囲： -∞ dB ～ +6.00 dB

❼ REV-X ネーム

選択したREV-Xタイプを表示します。

❽ REV-X エディット

「REV-X」(18ページ)の設定画面を開きます。

❾ REV-X タイプ

REV-Xのタイプを切り替えます。

選択肢： Hall、Room、Plate

アウトプットエリア

ハードウェアのアウトプットに関連するパラメーターを操作します。

❶ Mix Busネーム

本体のハードウェアMix Busを表示します。このMix Busには、トラックの出力バスが接続されている必要があります。

❷ アウトプットメーター

トラックの出力バスが接続された本体のMix Busのメーターを表示します。

❸ クリップインジケーター

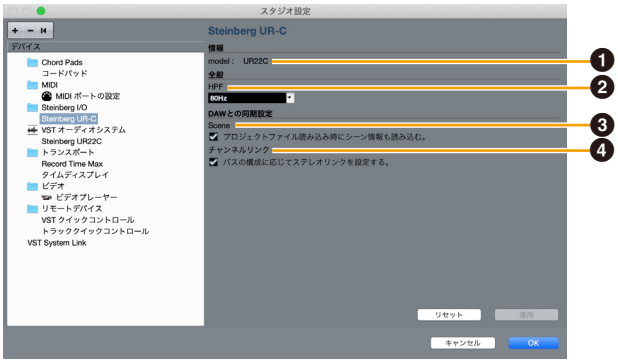
Mix Busの出力レベルがクリップすると点灯します。クリックすると消灯します。

❹ ヘッドフォン

ヘッドフォン1が常時ONとなります。

ハードウェア設定画面

本体の設定やCubaseとの連携機能に関わる設定、情報の表示をします。



❶ model

接続しているモデル名を表示します。

❷ HPF

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます。
選択肢：120Hz、100Hz、80Hz、60Hz、40Hz

❸ Scene

本体のシーンが保存されているCubaseのプロジェクトファイルを読み込む際に、シーン情報を本体側に自動で反映します。

ご注意

本体に保存されているデータは、上書きされます。

❹ チャンネルリンク

バスの構成に応じて自動的にステレオリンクを設定します。

Sweet Spot Morphing Channel Strip

Sweet Spot Morphing Channel Strip (Channel Strip)とは、コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたプロセッサーです。プロフェッショナルエンジニアのノウハウが凝縮されたセッティングがあらかじめ用意されており、簡単な操作でプロ並みの効果を得ることができます。

本体には、2基のChannel Stripが搭載されています。Channel Stripは、モニター信号だけにかけるか、モニター信号と録音信号の両方にかけるかを選べます。

本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripと、VSTプラグイン版のChannel Stripは、同じ機能です。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのChannel StripとVSTプラグイン版のChannel Stripの設定をプリセットで共有できます。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のChannel Strip を使うときは、[Dynamics]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。

画面例

画面の開き方

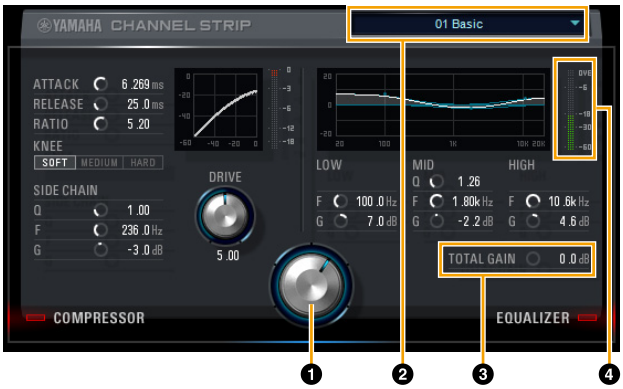
Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(14ページ)でChannel Stripを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR-Cから

「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(9ページ)でChannel Stripを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

コンプレッサーとイコライザー共通画面



❶ モーフ

Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。このノブを回すと、ノブのまわりの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を、同時に動かすことができます。2点の中間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

❷ Sweet Spot Data

Sweet Spot Dataを選びます。

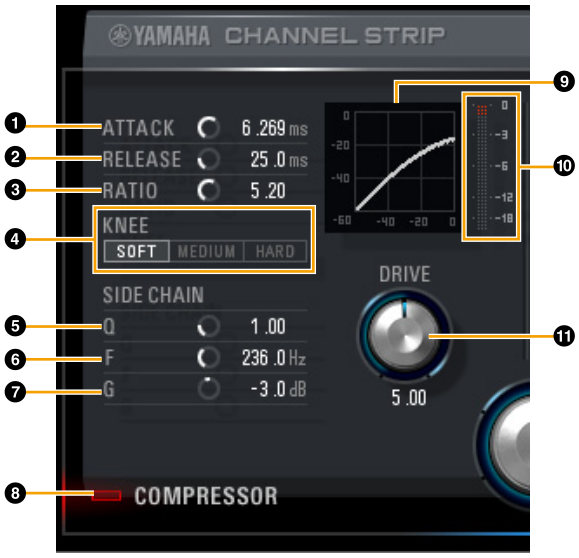
❸ TOTAL GAIN

Channel Strip全体のゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❹ レベルメーター

Channel Stripの出力レベルを表示します。

コンプレッサー



❶ ATTACK

コンプレッサーのアタックタイムを調節します。
範囲：0.092 msec ～ 80.00 msec

❷ RELEASE

コンプレッサーのリリースタイムを調節します。
範囲：9.3 msec ～ 999.0 msec

❸ RATIO

コンプレッサーのレシオを調節します。
範囲：1.00 ～ ∞

❹ KNEE

コンプレッサーのニーのタイプを選びます。

ニータイプ	説明
SOFT	自然に音量が変化します。
MEDIUM	SOFTとHARDの中間です。
HARD	はっきりと音量が変化します。

❺ SIDE CHAIN Q

サイドチェーンフィルターのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

❻ SIDE CHAIN F

サイドチェーンフィルターの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

❼ SIDE CHAIN G

サイドチェーンフィルターのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❽ COMPRESSORオン/オフ

コンプレッサーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❾ コンプレッサーカーブ

コンプレッサーの特性を表示するグラフです。
縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルです。

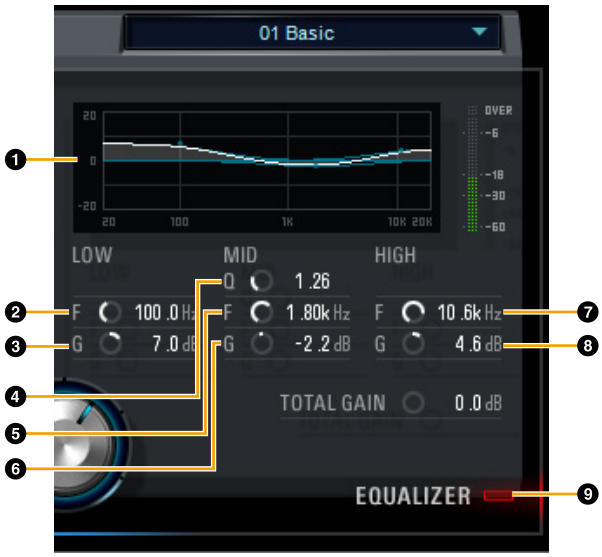
❿ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーのゲインリダクション量を表示します。

⓫ DRIVE

コンプレッサーのかかり具合を調節します。
値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 ～ 10.00

イコライザー



❶ イコライザーカーブ

3バンドイコライザーの特性を表示するグラフです。
縦軸はゲインの増減量、横軸は周波数です。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、LOW、MID、HIGHを調節できます。

❷ LOW F

ローバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 1.00 kHz

❸ LOW G

ローバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❹ MID Q

ミドルバンドのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

❺ MID F

ミドルバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

❻ MID G

ミドルバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❼ HIGH F

ハイバンドの中心周波数を調節します。
範囲：500.0 Hz ～ 20.0 kHz

❽ HIGH G

ハイバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❾ EQUALIZERオン/オフ

イコライザーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

REV-X

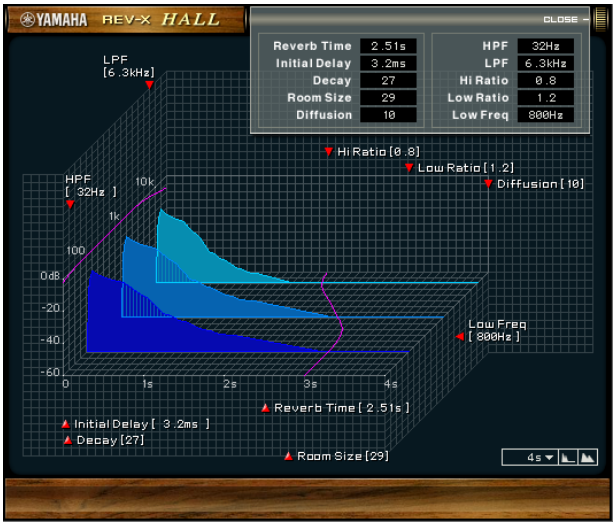
REV-Xとは、ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。

本体には、1基のREV-Xが搭載されています。本体に入力する信号を、REV-Xに送ることができます。REV-Xは、モニター信号だけにかけることができます。REV-Xには、Hall、Room、Plateの3つのタイプがあります。

本体に搭載されているDSPエフェクトのREV-Xと、VSTプラグイン版のREV-Xは、同じ機能です。ただし、画面下部にある[OUTPUT]と[MIX]は、VSTプラグイン版だけにあります。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのREV-XとVSTプラグイン版のREV-Xの設定をプリセットで共有できます。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のREV-Xを使うときは、[Reverb]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。

DSPエフェクトのREV-Xには、DAWから直接信号を送るための「FX Bus」があります。たとえば、録音したオーディオトラックからFX Busにセンドで信号を送ることで、録音時にモニター信号に使ったREV-Xの音を、再生時でも確かめることができます。

画面例



画面の開き方

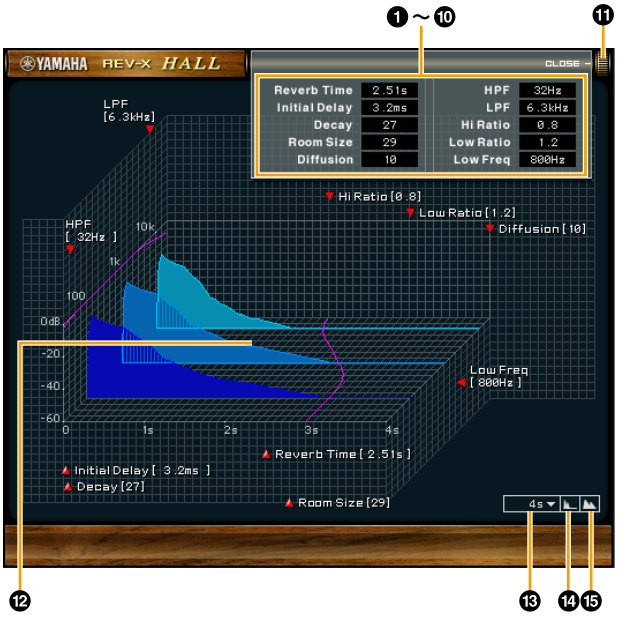
Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「REV-Xエディット」(14ページ)をクリックします。

dspMixFx UR-Cから

「REV-Xエリア」の「REV-Xエディット」(10ページ)をクリックします。

REV-X画面



ここでは、Hallタイプを例に説明します。

❶ Reverb Time

残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

❷ Initial Delay

残響がかかり始めるまでの時間を調節します。
範囲：0.1 msec ～ 200.0 msec

❸ Decay

残響が鳴り始めてから消えるまでの特性を調節します。
範囲：0 ～ 63

❹ Room Size

残響の空間の広さを調節します。
Reverb Timeと連動します。
範囲：0 ～ 31

❺ Diffusion

残響の密度や広がりを調節します。
範囲：0 ～ 10

❻ HPF

残響の低音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：20 Hz ～ 8.0 kHz

❼ LPF

残響の高音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：1.0 kHz ～ 20.0 kHz

❽ Hi Ratio

残響の高音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の高音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.0

❾ Low Ratio

残響の低音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の低音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.4

❿ Low Freq

Low Ratioの周波数を調節します。
範囲：22.0 Hz ～ 18.0 kHz

⓫ OPEN/CLOSE

残響を調節する画面を開いたり、閉じたりします。

⓬ グラフ

残響の特性を表示するグラフです。縦軸が信号レベル、横軸が時間、斜め軸が周波数を表わしています。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、残響の特性を調節できます。

⓭ 時間軸設定

グラフの時間(横軸)の表示範囲を切り替えます。
表示範囲：500 msec ～ 50 sec

⓮ ズームアウト

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームアウトします。

⓯ ズームイン

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームインします。

ソフトウェアの操作

- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[Ctrl]/[command]キーを押しながらクリックすると、初期値に戻すことができます。
- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[SHIFT]キーを押しながらドラッグすると、値を細かく増減できます。

Guitar Amp Classics

Guitar Amp Classicsとは、ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプシミュレーターです。サウンドキャラクター別に4種類のアンプタイプがあります。

本体に搭載されているDSPエフェクトのGuitar Amp Classicsと、VSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsは、同じ機能です。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのGuitar Amp ClassicsとVSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsの設定をプリセットで共有できます。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsを使う時は[Distortion]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192kHzの場合、本体のGuitar Amp Classicsは使用できません。

画面例

画面の開き方

Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(14ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR-Cから

「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(9ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

CLEAN

主にクリーントーンで使うアンプタイプです。トランジスタアンプ特有の、ハリのあるキラキラしたサウンドをエミュレートしています。マルチエフェクターなどをかけ録りするときなどに、非常に使いやすいサウンドキャラクターを持っています。また、アンプ独自のコーラスとビブラートが用意されています。

❶ VOLUME

入力レベルを調節します。

❷ DISTORTION

歪み量を調節します。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ Cho/OFF/Vib

エフェクトのオン/オフを切り替えます。[Cho]に合わせるとコーラスが、[Vib]に合わせるとビブラートが、それぞれオンになります。

❻ SPEED/DEPTH

Vib (ビブラート)がオンのときに、音の揺らぎのスピードと深さを調節します。
Cho (コーラス)がオンのときとエフェクトがオフのときは機能しません。

❼ BLEND

原音とエフェクト音のバランスを調節します。

❽ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

CRUNCH

軽く歪んだクランチサウンドで使うアンプタイプです。ブルースやロック、ソウル、R&Bなどでよく使われるビンテージタイプのチューブアンプのようなサウンドをエミュレートしています。

❶ Normal/Bright

サウンドキャラクターを切り替えます。[Bright]に合わせると、高音域の倍音が強調されます。

❷ GAIN

プリアンプ部への入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

DRIVE

主にディストーションサウンドで使用するアンプタイプです。高出力なハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。軽く歪んだクランチサウンドから、ハードロック/ヘビーメタル/ハードコアなどでよく使われる強力なディストーションサウンドまで、幅広い音づくりができます。

❶ AMP TYPE

6種類のタイプから選びます。1と2は、歪み成分がほかのタイプよりも少なめで、ピッキングのタッチが生々しく表現されるタイプ、3と4は倍音に厚みがあり、太くて柔らかいフィーリングを持つタイプ、5と6はタイトなアタック感と荒々しさを持つアグレッシブなタイプとなっています。また、偶数番号のタイプは、奇数番号のタイプに比べてプレゼンスのレンジが広くなっています。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

LEAD

主にリードギターで使用するアンプタイプです。倍音の豊かなハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。音抜けのよいリードや、シャープなバッキングに合った音づくりができます。

❶ High/Low

アンプの出力タイプを選びます。[High]を選ぶとより高出力なアンプタイプになり、より歪み成分の多い音づくりができます。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

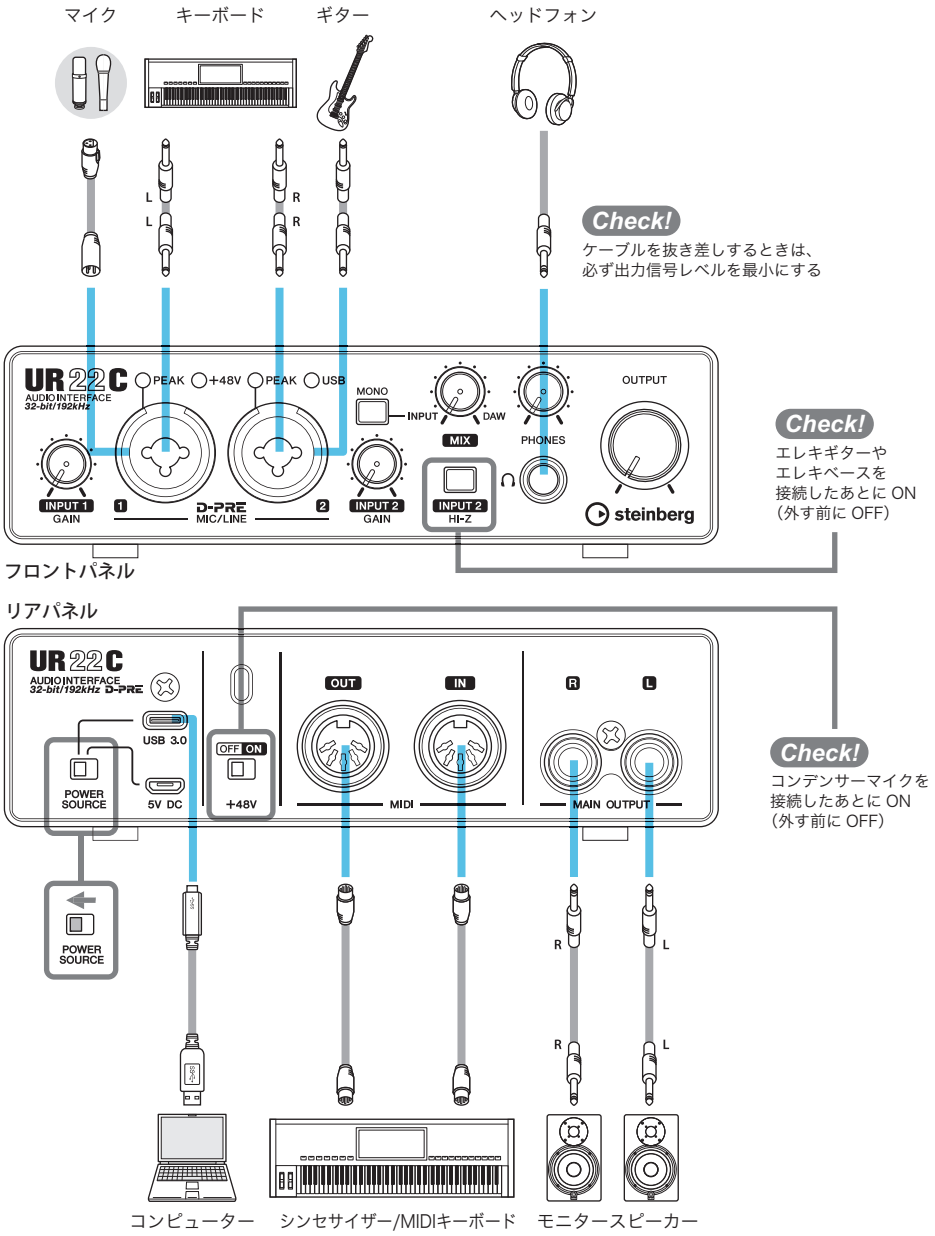
❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

> **GAIN/MASTER/OUTPUTの役割について**
> DRIVEとLEADは、GAIN/MASTER/OUTPUTの組み合わせで音づくりをします。GAINはプリアンプ部の入力レベルを調節するので、歪み量が変わります。MASTERはプリアンプ部からパワーアンプ部への出力レベルの調整です。GAINとMASTERは、ギターアンプの音質に影響が大きく、パワーアンプを十分にドライブした音にするには、MASTERも大きめに設定しなければなりません。そこで、エフェクトの最終的な音量を調節するOUTPUTを用意しています。OUTPUTで最終的な音量を調節することで、歪み具合などの音質に影響なくギターの音量を調節できます。

コンピューターで使う

接続例



NOTE

・バスパワーで使用する場合は、コンピューターのUSB 3.0端子に接続します。
・本体と接続するコンピュータのコネクター形状については、「コンピューターのコネクター形状」(32ページ)をご参照ください。

DAWソフトウェアのオーディオ設定をする

Cubaseシリーズ

1. **DAWソフトウェアが起動している場合は、終了します。**

2. **付属のUSBケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。**

3. **本体の[USB]インジケーターが点灯していることを確かめます。**

4. **Cubaseシリーズを起動します。**

5. **起動中、[ASIOドライバー選択]画面が表示されたときは、本体が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックします。**

   NOTE
   Macでは、[Steinberg UR22C (High Precision)]を選択している場合、Cubaseが排他的にドライバーを使用します。このとき、他のアプリケーションでは[Steiberg UR22C]を使用できません。

以上で、設定は完了です。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. **DAWソフトウェアが起動している場合は、終了します。**

2. **付属のUSBケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。**

3. **本体の[USB]インジケーターが点灯していることを確かめます。**

4. **DAWソフトウェアを起動します。**

5. **オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。**

6. **(Windowsのみ)DAWソフトウェアが使用するドライバーを、ASIOに設定します。**

7. **ASIOドライバー (Windows)またはオーディオインターフェース(Mac)を以下のように設定します。**

   ### Windows
   ASIOドライバーを[Yamaha Steinberg USB ASIO]に設定します。

   ### Mac
   使用するオーディオインターフェースをUR22Cに設定します。

以上で、設定は完了です。

録音/再生する

マイクを使った録音/再生の方法です。接続例(23ページ)に従って、[MIC/LINE 1]端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください

Cubaseシリーズ

1. **Cubaseシリーズを起動し、[steinberg hub]画面を表示します。**

2. **[その他]の中にある[Empty]を選んで、[作成]をクリックします。**

3. **以下の方法で、ダイレクトモニタリングをオンにします。**

[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)または[Steinberg UR22C] (Mac) → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

4. **プロジェクト画面に戻り、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio]をクリックし、[トラックを追加]を表示します。**

5. **[オーディオ入力]を選び、[構成]を[Mono]、[名前]を入力し、[数]を[1]として、[トラックを追加]をクリックし、新規のAudioトラックを1つ作成します。**

6. **追加されたオーディオトラックの[録音可能]と[モニタリング]がオン(点灯)になっていることを確かめます。**

7. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT 1 GAIN]ノブで入力信号レベルを調節します。**

> **最適な録音レベルにするために**
> 一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

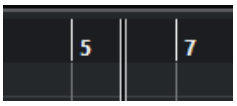
8. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

9. **をクリックして、録音を開始します。**

10. **録音が終わったら、をクリックして停止します。**

11. **オーディオトラックの[モニタリング]をオフ(消灯)にします。**

12. **ルーラーをクリックして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。**



13. **をクリックして再生し、録音した音を聴きます。**

モニタースピーカーで音を聴くときは、本体の[OUTPUT]ノブで出力信号レベルを調節します。

以上で、録音/再生の操作は完了です。

Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズの取扱説明書をお読みください。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. **DAWソフトウェアを起動します。**

2. **dspMixFx UR-Cを開きます。**

dspMixFx UR-Cの開き方は、「dspMixFx UR-C」の「画面の開き方」(8ページ)をご参照ください。

3. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。**

> **最適な録音レベルにするために**
> 一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

4. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

5. **dspMixFx UR-Cで、Channel StripとREV-Xの設定をします。**

6. **DAWソフトウェアで、録音を開始します。**

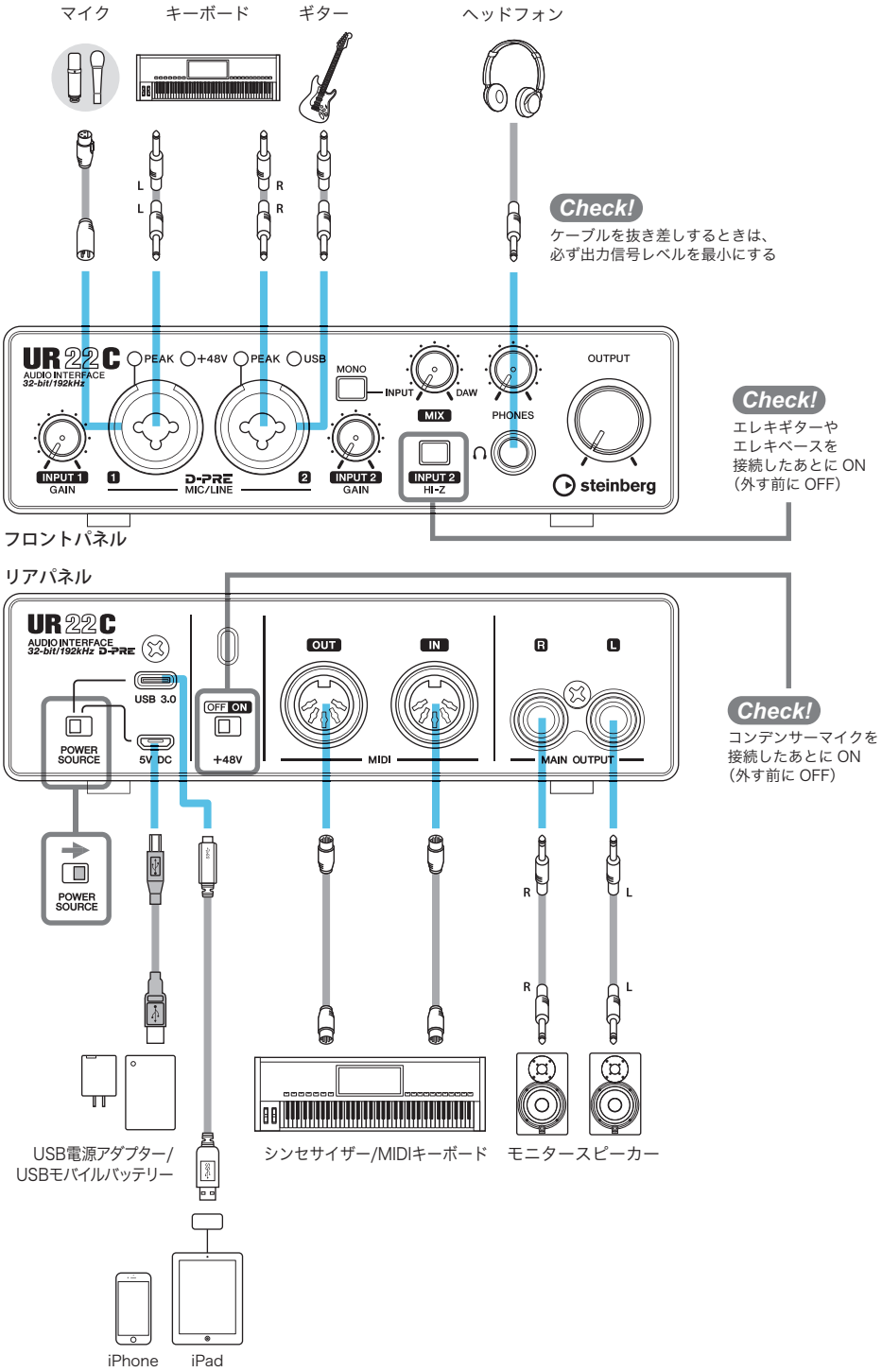
7. **録音が終わったら、停止します。**

8. **録音した部分を再生して、音を確かめます。**

DAWソフトウェアの詳しい使い方は、DAWソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

iOS機器で使う

接続例



NOTE

- iOS機器と本体の接続には、Apple社のアクセサリが必要な場合があります。詳細は、UR22Cスタートアップガイドをご参照ください。
- iOS機器を操作する場合、USB電源アダプターまたはUSBモバイルバッテリーから電源供給が必要となります。
- 対応のiOS機器の情報については、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。
  https://japan.steinberg.net/

録音/再生する

マイクを使った録音/再生の方法です。接続例(27ページ)に従って、[MIC/LINE 1]端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

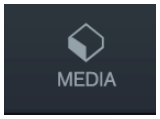
ここでは例としてCubasis (DAWアプリケーション)を使って説明します。

NOTE

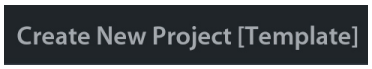
Cubasisの詳細は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。サポートはSteinbergウェブサイトのフォーラム(英語)で提供しています。
http://japan.steinberg.net/jp/ios_apps/cubasis.html

1. **Cubasisを起動します。**

2. **画面左上の[MEDIA]タブをタップします。**

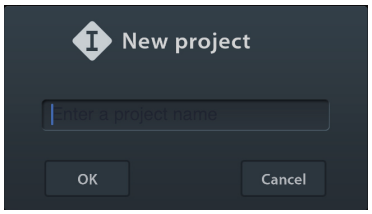


画面下部に、[Create New Project]が表示されます。

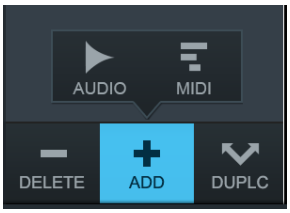


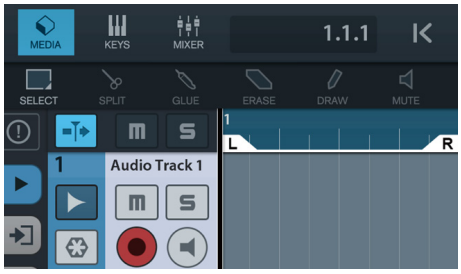
3. **[Create New Project]をタップします。**

4. **[New project]画面にて、プロジェクト名を入力し、[OK]をタップします。**

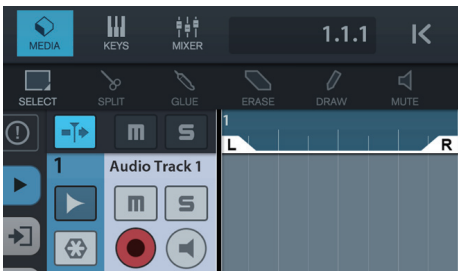


5. **画面左側にある[+ADD]をタップし、次に[AUDIO]をタップしてAudio Trackを追加します。**





6. **画面左横のタブにある ▶ をタップして、Trackインスペクターを表示します。**



7. **をタップして詳細画面を表示し、数値をタップして楽器やマイクを接続している入力端子にあわせます。**

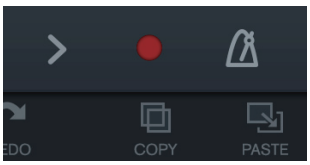
8. **をタップしてモニタリングをオン(点灯)にします。**

9. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT 1 GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。**

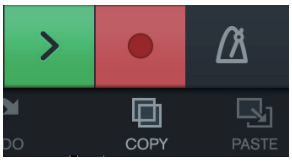
> **最適な録音レベルにするために**
> [PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルを上げます。そのあと、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりと下げます。

10. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

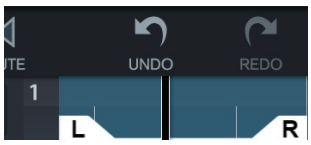
11. **[●]をタップして、録音を開始します。**



12. **録音が終わったら、[>]をタップして停止します。**

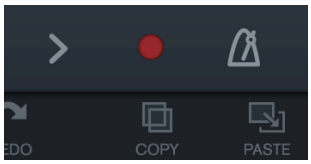


13. **ルーラーをドラッグして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。**



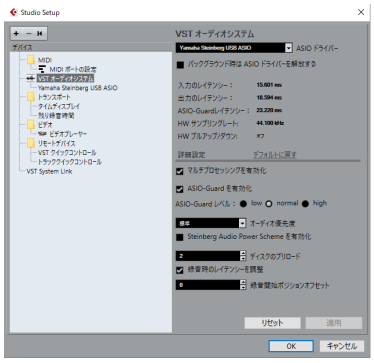
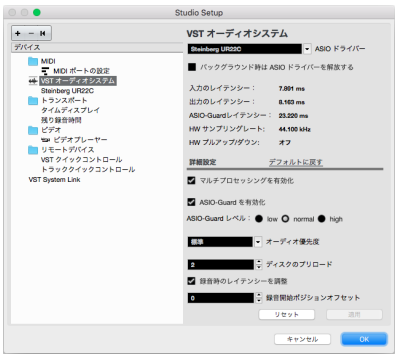
をタップすることで、録音を開始した位置に戻ることもできます。

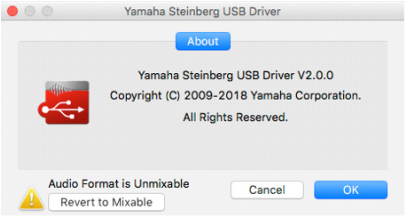
14. **[>]をタップして再生し、録音した音を聴きます。**



dspMixFx (iOS機器用)
iOS機器からはdspMixFx for iOSを使って本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作できます。詳細は、Steinbergウェブサイトをご参照ください。
https://japan.steinberg.net/

困ったときは

POWERインジケーターが点灯しない	**[POWER SOURCE]スイッチの設定は適切ですか？** 電源供給がない場合は点灯しません。バスパワーで動作させるときは[USB 3.0]端子側へ(コンピューターのみ)、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリー電源で動作させるときは[5V DC]端子側へスイッチを切り替えてください。
POWERインジケーターが点滅し続ける	**電源供給に問題はありませんか？** 電源供給に問題がある場合は点滅します。[POWER SOURCE]スイッチを[5V DC]端子側へにスライドして、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーをご使用ください。
	適切なUSBケーブルをお使いですか? ・同梱のUSBケーブルをご使用ください。 ・コンピューターのUSB Type-C端子と本体を接続する場合は、市販のUSB 3.1 Type-C to Type-Cケーブルが別途必要です。
USBインジケーターが点滅したままで点灯に切り替わらない	**TOOLS for UR-Cはインストールしましたか？ (コンピューターのみ)** 本体とコンピューターが通信できていないときは点滅します。スタートアップガイドを参照して、TOOLS for UR-Cをインストールしてください。
音が出ない	**TOOLS for UR-Cはインストールしましたか？** スタートアップガイドを参照して、TOOLS for UR-Cをインストールしてください。
	適切なUSBケーブルをお使いですか? 付属のUSBケーブルをご使用かどうかを確認してください。
	本体の出力レベルは上がっていますか？ [OUTPUT]ノブや[PHONES]ノブの出力レベルを確認してください。
	本体が、マイクやモニタースピーカーと正しく接続されていますか？ 「接続例」(23ページ、27ページ)を参照して、マイクやモニタースピーカーが正しく接続されていることを確認してください。
	DAWソフトウェアのオーディオ設定は完了しましたか？ 「DAWソフトウェアのオーディオ設定」(24ページ)を参照して、DAWソフトウェアのオーディオ設定が完了していることを確認してください。完了していなければ、もう一度設定してください。
	Cubaseシリーズの[ASIOドライバー]の設定は適切ですか？ Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [VSTオーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)、[Steinberg UR22C]または[Steinberg UR22C (High Precision)] (Mac)が選ばれていることを確認してください。 **Windows**  **Mac** 

音が出ない	**DAWソフトウェアの起動前に、コンピューターと本体を接続しましたか?** 本体とコンピューターを接続したあと、DAWソフトウェアを起動してください。
	入出力のルーティング設定は適切ですか？ 「録音/再生する」(25ページ)を参照して、DAWソフトウェアの入出力のルーティング設定を確認してください。
	モニタースピーカーの電源がオフになっていませんか？ モニタースピーカーの電源がオンになっていることを確認してください。
	バッファーサイズが小さすぎませんか？ 「Yamaha Steinberg USB Driver」(6ページ)を参照して、バッファーサイズを確認してください。
	「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されていませんか？ (Macのみ) Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is unmixable」のエラーメッセージが表示されます。[Revert to Mixable]を押してエラーを解消します。 
音が正常に出ない (ノイズ、音切れ、歪み、ハウリング)	**お使いのコンピューターは、動作環境を満たしていますか？** 動作環境を確認してください。最新の情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。 https://japan.steinberg.net/
	USBモードは適切ですか？ お使いのコンピューターに搭載されているUSBホストコントローラーによっては、SuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)モードでのご使用時に音切れが発生することがあります。そのような場合には、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルで USBモードをHigh-Speed (USB 2.0)に変更してみてください。
	DAWソフトウェア上で、たくさんのオーディオトラックを再生していませんか？ お使いのコンピューターの性能によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れたりすることがあります。オーディオトラックを少なくして、音を確認してください。
	マイクの接続方法は適切ですか？ マイクはXLR端子で接続してください。マイクをフォーン端子で接続すると、十分な音量が得られません。
	ループバックの設定は適切ですか？ ループバック機能を使わない場合、「マスターエリア」(11ページ)を参照して、ループバックの設定をオフにしてください。
	「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されていませんか？ (Macのみ) Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is unmixable」のエラーメッセージが表示されます。[Revert to Mixable]を押してエラーを解消します。

最新のサポート情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。
https://japan.steinberg.net/

資料

エフェクトの使用制限

UR22Cでは、Channel Stripを2つ、Guitar Amp Classicsを1つ装備しています。

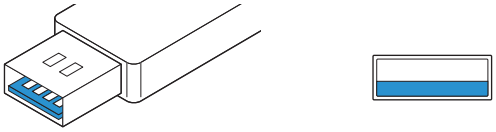
また、各入力チャンネルにエフェクトをインサートするSLOTが2つ用意されているので、Channel StripとGuitar Amp Classicを同じチャンネルで同時に使用することも可能です。

ただし、以下の使用制限があります。

- Channel Strip 2 つを同じチャンネルで使用することはできません。
- Guitar Amp Classicsはステレオチャンネルでは使用できません。
- Guitar Amp Classicsはサンプリング周波数176.4kHz, 192kHzのときは使用できません。

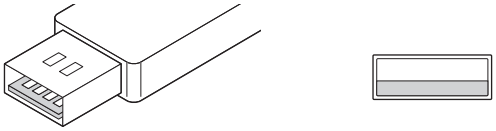
コンピューターのコネクター形状

USB 3.0 Type A



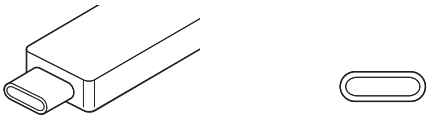
コンピューターのUSB 3.0 Type A端子に接続する場合は、付属のUSBケーブルが必要です。

USB 2.0 Type A



コンピューターのUSB 2.0 Type A端子に接続する場合は、付属のUSBケーブルと市販のUSB電源アダプターまたは市販のUSBモバイルバッテリーが必要です。

USB 3.1 Type C



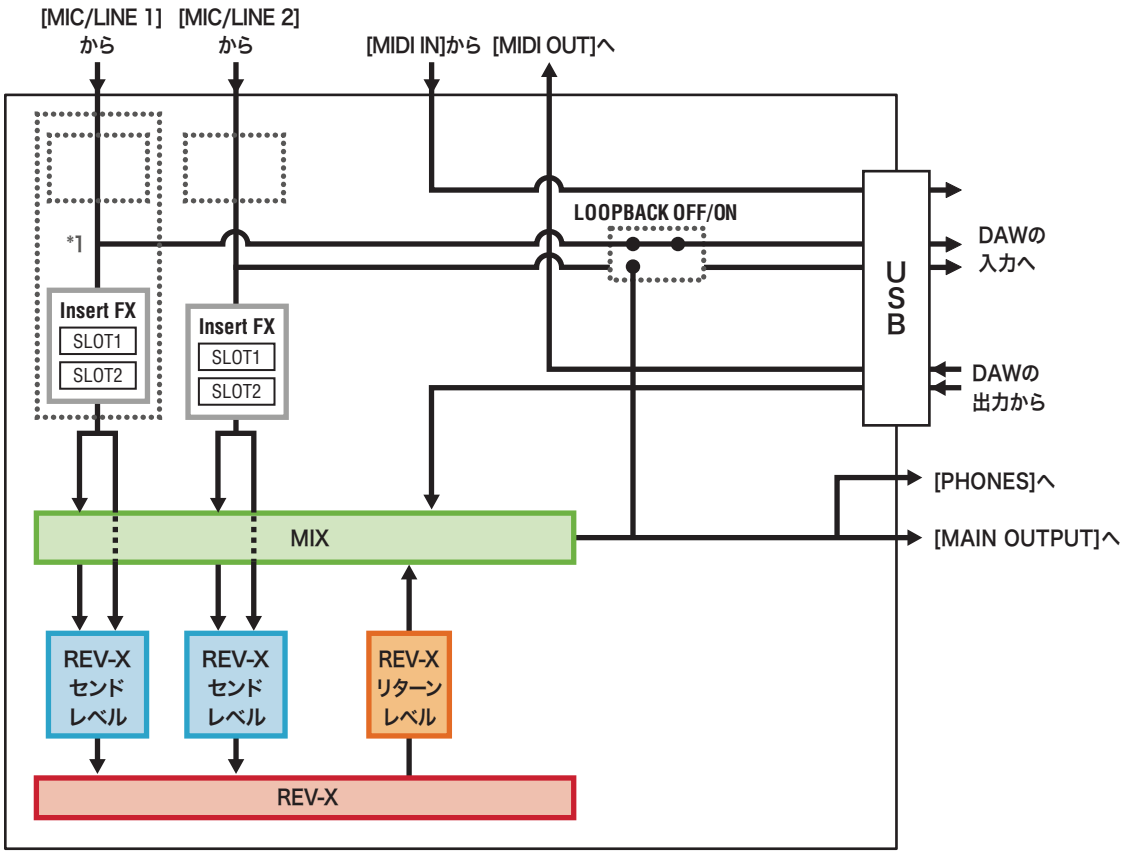
コンピューターのUSB 3.1 Type C端子に接続する場合は、市販のUSB 3.1 Type-C to Type-Cケーブルが別途必要です。

本体内部の信号の流れ

下の図は、本体内部の信号の流れを示すものです。

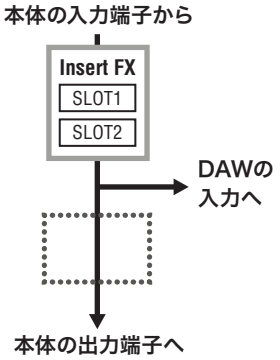
NOTE

- 本体の操作子([INPUT GAIN]ノブ、[OUTPUT]ノブなど)は省いています。
- 各設定は、「Cubaseシリーズの専用画面」(13ページ)または「dspMixFx UR-C」(8ページ)で変更します。
- サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているDSPエフェクトのGuitar Amp Classicsは使用できません。

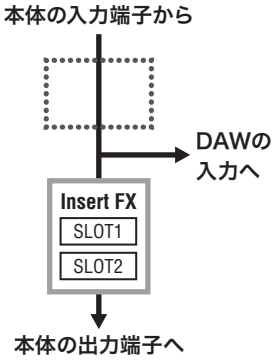


*1 エフェクトの挿入位置を、以下に示します。

FX REC (オン)



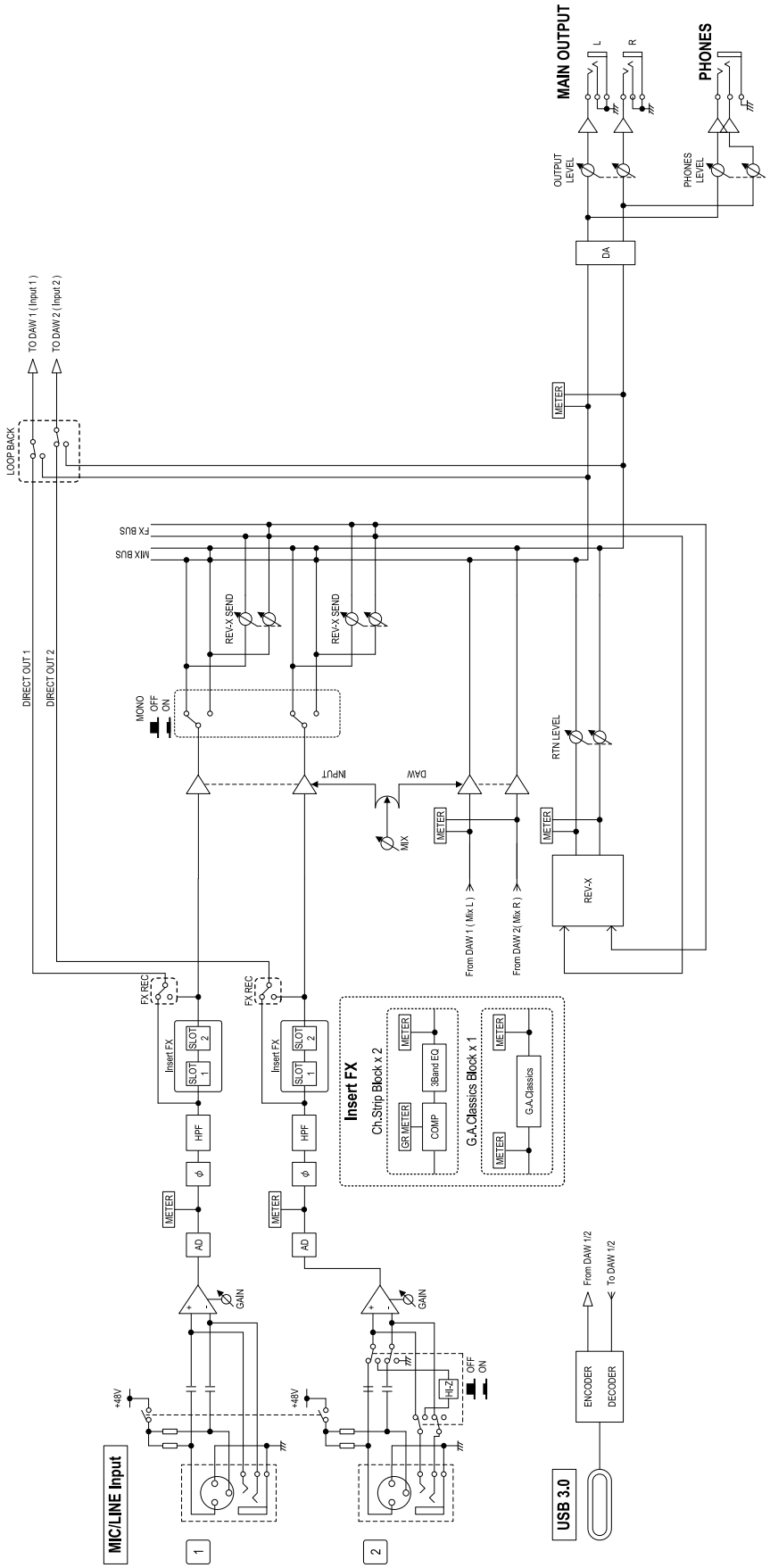
FX REC (オフ)



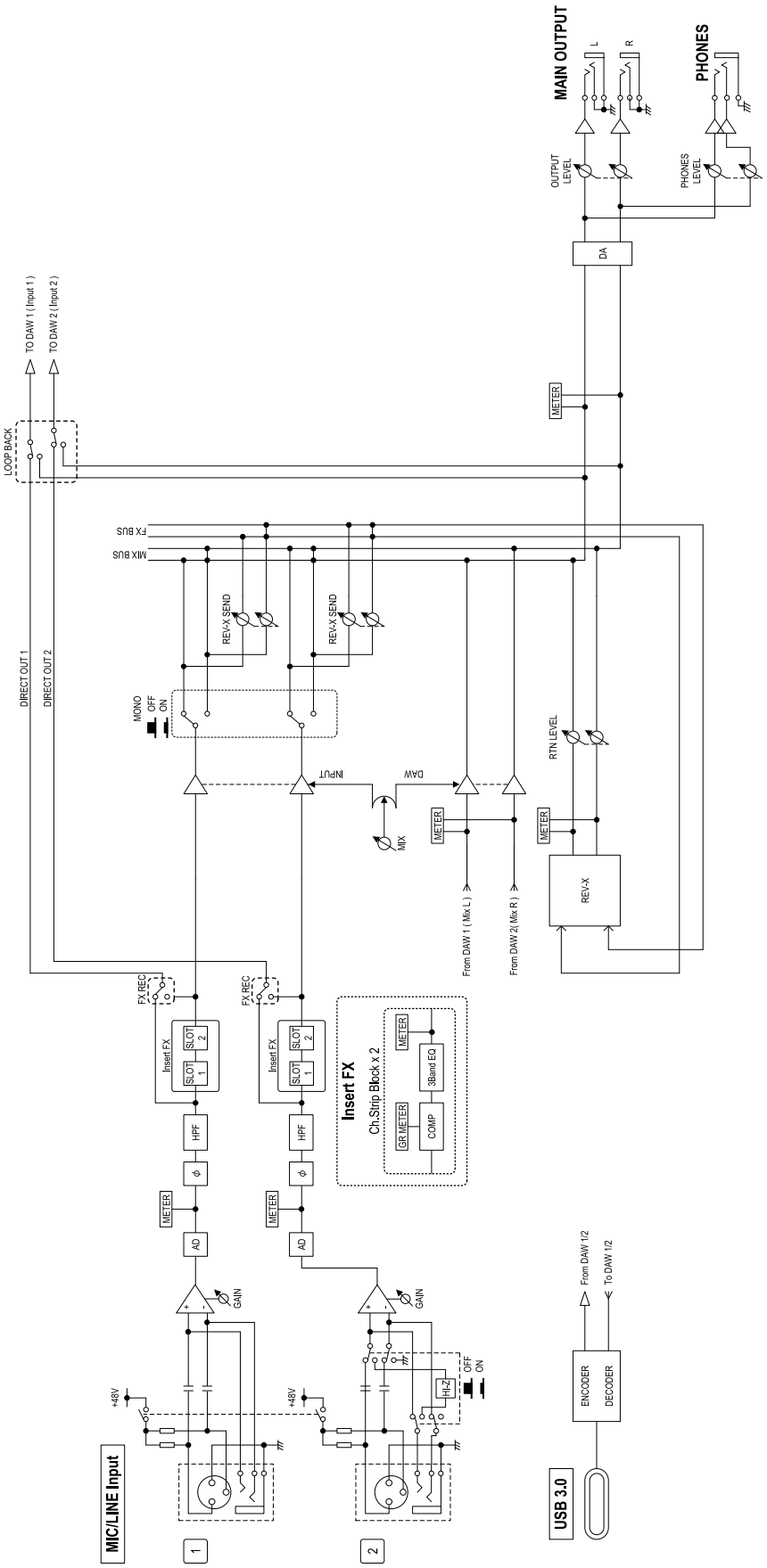
- DSPエフェクトのかかった信号をDAWで録音する場合は、FX RECをオンに設定します。
- DSPエフェクトのかかっていない信号をDAWで録音する場合は、FX RECをオフに設定します。

ブロックダイアグラム

44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz



176.4kHz, 192kHz



技術仕様

MIC INPUT 1/2 (バランス)	
周波数特性	+0.0/-0.4 dB, 20 Hz ～ 22 kHz
ダイナミックレンジ	102 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.003 %, 1 kHz, 22 Hz/22 kHz BPF
最大入力レベル	+6 dBu
入力インピーダンス	4 kΩ
Gain範囲	+6 dB ～ +60 dB
HI-Z INPUT 2 (アンバランス)	
最大入力レベル	+9.0 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain範囲	0 dB ～ +54 dB
LINE INPUT 1/2 (バランス)	
最大入力レベル	+22 dBu
入力インピーダンス	18.5 kΩ
Gain範囲	-10 dB ～ +44 dB
MAIN OUTPUT (インピーダンスバランス)	
周波数特性	+0.0/-0.2 dB, 20 Hz ～ 22 kHz
ダイナミックレンジ	105 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.002 %, 1 kHz, 22 Hz/22 kHz BPF
最大出力レベル	+12 dBu
出力インピーダンス	150 Ω
PHONES	
最大出力レベル	15 mW +15 mW, 40 Ω
USB	
仕様	USB 3.0, 32-bit, 44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHz/176.4 kHz/192 kHz
XLR INPUT	
極性	ピン1：グラウンド ピン2：ホット(+) ピン3：コールド(-)

一般仕様

電源条件	4.5 W
最大外形寸法 (W x H x D)	159 x 47 x 159 mm
質量	1.0 kg
動作環境温度	0 ℃〜40 ℃
付属品	· USB 3.0ケーブル(3.1 Gen1, Type-C to Type-A, 1.0 m) · スタートアップガイド(冊子、保証書付き) · CUBASE AI DOWNLOAD INFORMATION · ESSENTIAL PRODUCT LICENCE INFORMATION · STEINBERG PLUS DOWNLOAD INFORMATION

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、Steinbergウェブサイトからダウンロードできます。

TOOLS for UR-Cのアンインストール

TOOLS for UR-Cのアンインストールは、以下のソフトウェアを個別に削除する必要があります。

- Yamaha Steinberg USB Driver
- Steinberg UR-C Applications
- Basic FX Suite

以下の手順でアンインストールします。

Windows

1. コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。

2. コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログオンします。

アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

3. 以下の方法で、アンインストールするための画面を表示します。

[コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール]を選択し、[プログラムのアンインストールまたは変更]を表示します。

4. リストから、削除するソフトウェアを選びます。

- Yamaha Steinberg USB Driver
- Steinberg UR-C Applications
- Basic FX Suite

5. [アンインストール]/[アンインストールと変更]をクリックします。

[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。

6. 画面の指示に従ってアンインストールします。

選ばなかったソフトウェアをアンインストールするときは、上記手順4〜6を繰り返します。

以上で、TOOLS for UR-Cのアンインストールは完了です。

Mac

1. コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。

2. コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログインします。

アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

3. あらかじめダウンロードしておいたTOOLS for UR-Cを展開します。

4. 展開したフォルダー内にある、以下のファイルをダブルクリックします。

- Uninstall Yamaha Steinberg USB Driver
- Uninstall Steinberg UR-C Applications
- Uninstall Basic FX Suite

5. 「Welcome to the * uninstaller.」と表示されたら、[Run]をクリックします。**

***はソフトウェア名です。

以降は、画面の指示に従って削除を進めます。

6. 「Uninstallation completed.」と表示されたら、[Restart]または[Close]をクリックします。

7. コンピューターの再起動を促す画面が表示されたら、[再起動]をクリックします。

選ばなかったソフトウェアをアンインストールするときは、上記手順4〜7を繰り返します。

以上で、TOOLS for UR-Cのアンインストールは完了です。

Steinberg Website
https://japan.steinberg.net/

Manual Development Group
© 2019 Yamaha Corporation
2022年1月発行 MW-C0